東京に平和祈念館（仮称）を

「戦争の惨禍を繰り返すな」、孫子の代に平和のバトンを

東京をふたたび火の海にしないために

東京空襲遺族会会長　星野　弘

戦後70年、節目の年です。

東京空襲遺族会は「戦争の惨禍は繰り返さない」決意で訴訟をたたかい、民間人空襲被害者の人権と暮らし、平和をまもるため、「戦争の後始末をしてください」と政府に要求してきました。

安倍政権は「集団的自衛権」の国会論戦のなかで、世界の裏側まで、中東にもどこでも自衛隊を派遣し、アメリカ軍と何時でも何処の戦争にも派遣できるなど、日本の国土と国民を「戦争前夜」に後戻りさせようとしています。

「これは、憲法・9条を蹂躙し、「日本を戦争する国に」することです。断じて認めることはできません。

戦後70年間、放置してきた「戦後処理」、民間人戦争被害者には何の償いも謝罪もせずに、軍人・軍属には54兆円の国費を投じて年金・救済をつづけています。

第2次世界大戦の主要国は、すべて軍人と民間人に平等に救済しています。日本は、民間人は「我慢せよ」（受忍論）と押しつけています。空襲死者の遺族、空襲で傷つき障害者となった人、父母兄弟を失い天涯孤独の孤児になった人びとの戦後70年の労苦への救済は急がねばなりません。

さらに、東京都内には、民間人空襲被害者を追悼する公的施設はありません。「東京都平和祈念館（仮称）の建設予算は凍結し、都民からあつめた空襲関係資料」5千点は公開されずに倉庫に置き去りにされています。

首都東京の、戦争の後始末もすすんでいません。過日の戦争で、10万人以上の死者を出した広島・長崎、沖縄は、氏名記録と公開、追悼碑、資料館を建設し、毎年追悼行事をおこない、戦争の真実をひろめ、平和の世論喚起に大きな役割を果たしています。

東京大空襲訴訟の地裁、高裁の判決は敗訴でしたが、被害者の労苦を認め、「被害者の実態調査や死者の調査、死亡者の埋葬・顕彰…国家の道義的義務とする余地は十分にありうる―」とも述べています。

さらに「すなわち、国会が、さまざまな政治的配慮に基づき立法を通じて解決すべき問題」（地裁判決引用）とも述べており、「空襲被害者等援護法」（仮称）の制定は「戦争の後始末」の一つです。

私たちは、「全国空襲被害者等援護法」の制定をめざし、運動を全国にひろげ、国会に超党派の「議員連盟」の再建をめざし努力しています。

安倍内閣の暴走への反対は「戦争か平和か」のたたかいです。孫子の代に平和のバトンをわたすのは、戦争体験者の責務と思っています。

星野　弘氏プロフィール

戦後50年（1996年）、「遺体も見つからず、生きていた証しに、せめて名前だけでも」との遺族の切実な声に共感し、「空襲死者の氏名記録運動」を提唱。以来20余年、東京都に空襲死者氏名の記録を戦後54年ぶりに着手させ、昨年末で8万3百余名まで記録しました。2007年3月、東京地裁に131名の原告と集団提訴し、国を相手に謝罪と補償を求めて奮闘、しかし2013年5月最高裁は不当にも棄却決定をだしました。現在は高齢化し、少なくなりましたが広範な戦争体験者、平和を願う全国の人びとと共同、団結し、勝利をめざして頑張っています。1930年10月31日、墨田区生まれ現在84歳8カ月。

発行　「東京都平和祈念館（仮称）」建設をすすめる会
〒102－0084　東京都千代田区二番町12－1エデュカス東京
東京総合教育センター気付　FAX03－5927－1487

第１３回語り継ぐ東京大空襲
明治座・築地周辺の戦争遺跡めぐりとトーク集会

「東京都平和祈念館（仮称）建設をすすめる会は、５月31日、第13回語り継ぐ東京大空襲　明治座・築地周辺の戦争遺跡めぐりとトーク集会を開催しました。

今回のフィールドワークは、１９４５年３月10日、アメリカのＢ29戦略爆撃機３００余機による大空襲で、第一回、第二回、第三回と焼夷弾攻撃をうけ、死者１２５０名、負傷者３８００名、罹災者３万３０００名（「帝都防空本部情報」第１４７号・３月16日15時現在）焼失戸数５１６７戸、焼失建物坪数13万０７５５坪（約４３万１５００平方㍍）という被害がでた旧日本橋区域と、戦時中反戦平和活動を弾圧した特高警察の拠点となってきた築地警察署や海軍発祥の地とされる築地地域などをめぐりました。

【写真】空襲で焼ける前の明治座

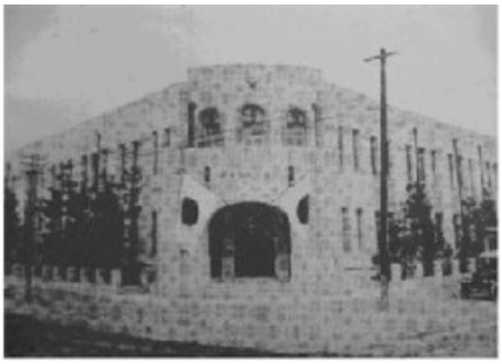
フィールドワークは、中央区で長年平和のための戦争展を開催するなど平和運動を続けてきた「平和プラザ実行委員会」の福田和男さん、長谷川浩一さん、関根信夫さんが案内を務めてくれました。

この日は、週間予報では雨天という事でしたが、雨は降らず、気温はグングンあがり、

【写真左】中央公園・戦争中高射砲陣地にされていた。３月10日の大空襲の際、避難してきた人びとは追い返された。

【写真右】明治座前の中央公園内に建立されている観音堂（観音堂前の立て札には、

と刻まれている）



【写真左】「蟹工船」などを著した日本の代表的なプロレタリア作家である小林多喜二を虐殺した（１９３３年・昭和８年２月20日）当時の築地警察署

【写真右】現在の築地警察署。そのまえで説明をうけるフィールドワーク参加者。

参加者は汗を拭いつつの行動となりました。

大空襲下明治座の悲劇

フィールドワークは、都営地下鉄「浜町駅」真上の浜町公園をスタートにすすみました。

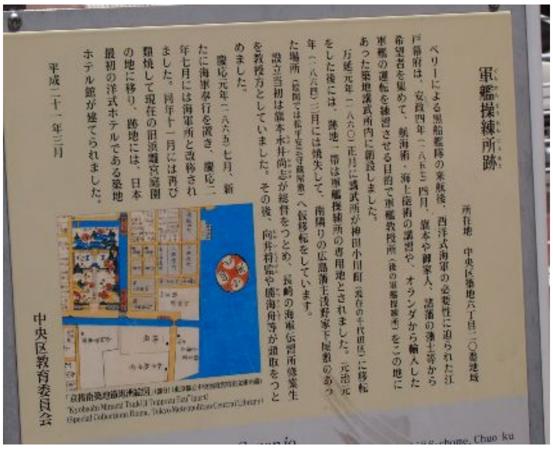
この中央公園には戦時中高射砲陣地があって、一般の人の立ち入りは禁止されていました。しかし３月10日の東京大空襲の際には、焼夷弾攻撃を避けようとして多くの人がこの公園に詰めかけましたが、入ることができなかったということです。この公園に避難しようとした人の中には、やむをえず明治座に入った人もいるようです。

明治座は関東大震災で焼失したので昭和３年（１９２８年）に耐震耐火、地上４階・地下１階の鉄筋コンクリートの建物に建て替えられ、１５５２名の収容力がありました。このようなことを知っている周辺の人びとは、明治座まで避難してきたが、すでに避難してきた人が類焼することを恐れ、中から鉄の扉を固く閉じる。明治座に入れなかったひとは、その場で焼死。ところがそのうち楽屋から火が内部に広がり始め、内部にいた人も窒息死するなど被害が広がったという事でした。

明治座で亡くなった犠牲者を供養するためということで、戦後の１９５０年（昭和25年）12月、明治座の社長になった地元の建設会社社長新田新作氏が発願主となって観音堂が建立されたという説明がされました。

築地警察署の特高（特別高等警察）は、小林多喜二に筆舌に尽くし難い拷問をくわえ、生死をさまよう状況にあるところを放置し、警察署裏の前田医院に担ぎこみ「心臓まひ」と診断させ、それによる死と発表した。【写真左】前田医院入口。特高は国家反逆罪・不敬罪を口実に反戦・平和活動家などを次々に逮捕・投獄していった。

【写真右】築地小劇場跡。１９２４年（大正12年）、土方与志、小山内馨らによって創設。日本の革新的新劇運動に大きな役割を果たす。小林多喜二も度々足を運んだ。



【写真右上】「原爆まぐろ」プレート。都営地下鉄「築地駅」近くの築地市場入口付近の壁面に由来プレートが貼られている。１９５４年３月１日、アメリカのビキニ水爆実験で汚染されたマグロなどが廃棄されたとみられる場所。

築地は海軍発祥の地と言われている。明治以降、海軍兵学校の前身である海軍兵学寮をはじめ軍艦操練所【写真上左】、海軍大学校、海軍軍医学校、海軍造兵廠、海軍経理学校【写真左下】などが置かれてきた。【写真右下】「かちどき」の渡し碑

①築地警察署
（小林多喜二虐殺の現場）

②前田医院
（小林多喜二が担ぎ込まれた）

③築地小劇場

④海軍兵学寮跡、
海軍軍医学校跡

⑤マグロ塚プレート

⑥海軍発祥の地
（水神社、「旗山」）

⑦軍艦操練所跡

⑧海軍経理学校の碑

⑨かちどきのわたし碑

⑩築地本願寺

多喜二をしのびつつ、また海軍発祥の地という築地のもう一面を見る

フィールドワークの一行は、このあと人形町から東京メトロ地下鉄に乗車、築地に行き、プロレタリア文学の小林多喜二を特高警察が虐殺した築地警察署、拷問で息絶え絶えになった多喜二を放置したうえで、担ぎこんだ前田医院、多喜二もたびたび訪ねた築地小劇場跡、アメリカのビキニ水爆実験で放射能に汚染された大量のマグロを埋めたとされるあたりの築地市場の外壁にはられた銘板、海軍兵学（海軍兵学校の前身）跡、海軍軍医学校跡、軍艦操練所跡、海軍経理学校の碑など築地市場が昔は海軍発祥の地であったとの隠れたもう一面をもっていたことをあらためて認識させられました。

宗教者の講話・大空襲記録の朗読など多彩なトーク集会

午後は、築地本願寺講堂でトーク集会を開催。

八王子市内の延立寺住職の松本智量氏が「宗教者として戦後70年を考える」と題しての講演、東京都教職員組合の大山圭湖副委員長による、３月１０日の日本橋空襲の被害記録の朗読、中央区で毎年平和展を開催してきた平和プラザ実行委員会の活動報告、柴田桂馬東京原水協代表理事から都立の「平和祈念館（仮称）」をつくる署名運動についての訴えなどがおこなわれました。

松本智量氏は講演の中で、戦争中、部隊によってはその中の僧侶が従軍僧となって、「人を殺すのも慈悲の一つ」と説いて、戦争に協力させられたこともあったと報告。真宗大谷派（東本願寺）の里雄康意宗務総長が５月21日に発した「宗派声明」を引用して「仏の智慧に聞く真宗仏教者として、その人びとの深い悲しみと大いなる願いの中から生み出された日本国憲法の立憲の精神を蹂躙する行為を、絶対に認めるわけにはまいりません。これまで平和憲法の

【写真上】松本智量さん

【写真上】大山圭湖さん

【写真上】福田和男さん

精神を貫いてきた日本の代表者には、国、人種、民族、文化、宗教などの差異を超えて、人と人が水平に出あい、互いに尊重しあえる『真の平和』を、武力に頼るのではなく、積極的な対話によって実現することを求めます」とうったえました。

平和プラザの福田さんは「中央区の戦争展は、戦争の加害、被害、抵抗の三つを原則に１３年前から毎年、３月10日の東京大空襲に合わせて開いてきましたが、多くの小中高生や若者に来ていただくため、今年から８月に開催します。課題は、中央区の後援を取り付けることで、『加害』を巡り難しい問題はありますが、粘り強く要請していくつもりです」と発言。これを受けて参加者から、地域の学校や教員を通じて、戦争体験の「出前授業」を行っている例などが紹介されました。

参加者は３３名でした。

「平和祈念館（仮称）」をつくる署名運動について

柴田桂馬
原水爆禁止東京協議会
代表理事

１、「東京都平和祈念館（仮称）」建設の原点

１）「東京大空襲戦災誌」発行の起点

全５巻が発行（１９７３年３月１０日）されてから今年は４２周年

早乙女勝元さん、松浦総三さんなど「東京空襲を記録する会」が再び戦争の惨禍をくりかえしてはならない思いをこめて作成

２）東京空襲・戦災記念館をつくる会の発足（１９７４年４月）

貫かれた思想：「過去の教訓を学ばぬ者は、必ず同じ過ちを繰り返すだろう」

（Ｇ・サンタヤーナの人類

に対する警告
１９７９年２月２６日、永六輔、北　杜夫、澤村貞子、杉村春子、高木東六、林家正蔵、堀田善衛、吉村　昭、吉行淳之介、松浦総三、一色次郎、早乙女勝元の１２氏が都知事候補に「『空襲・戦災記念館』（仮名）を東京に設置することでの公開要請書」を発表。
３）非核東京都宣言を求める運動
４）１９９０年（平成２年）７月１０日：東京都議会総務生活文化委員会での自民党の小山敏雄議員の発言＝戦争の惨禍を振り返り、再びこれを起こさないことを誓うとともに、将来に向かって世界の平和に貢献する決意を新たにするよすがとするためには、しかるべき日を平和の日として制定することが最も望ましく、その日としては、一般市民１０万人の命が失われた第二次大戦中でも最も被害が大きかった３月１０日が最も適切であります。よって、東京都平和の日条例の制定には全面的に賛成致します。
◆１９９０年７月２０日：「東京都平和の日」条例公布・施行
◆１９９１年３月１０日：第１回東京都平和の日記念行事
◆１９９２年１月：「東京都平和の日」企画検討委員会で、「平和祈念館の整備の検討開始」を提言
◆１９９２年６月２５日：東京都平和祈念館基本構想懇談会（座長＝永井道雄氏）が発足
◆１９９３年６月８日：同基本構想懇談会が検討結果を鈴木俊一都知事に報告
◆１９９５年３月１０日：「平和の日」記念式典で「東京都民平和アピール」を発表
◆１９９５年８月１５日：村山内閣総理大臣が「戦後５０周年の終戦記念日にあたって」の談話を発表
◆１９９６年５月３１日：第１回東京都平和祈念館（仮称）建設委員会開催
◆１９９７年７月：都議会議員選挙
　靖国派都議の暗躍が表面化
◆１９９８年３月２７日：都議会本会議が「平和祈念館の建設にあたっては、展示内容等について、都議会の合意を得たうえで実施すること」との付帯決議
◆１９９８年７月１５日：「東京都平和祈念館（仮称）」建設委員会が青島幸男都知事に報告書を提出
◆１９９９年３月１１日：都議会本会議が「平和祈念館についての」付帯決議
◆１９９９年４月：都知事選挙で石原慎太郎氏が当選
以来、今日まで「東京都平和祈念館（仮称）」建設問題は「凍結」状態

２、右翼靖国派による「東京都平和祈念館（仮称）」建設阻止の２つの論拠の破たん

１）彼らは「東京都平和祈念館（仮称）」に「軍事都市東京」というコーナーを設置す

参加者のアンケートから

（東村山：女性　Ｋさん）
１、明治座・築地周辺の戦争遺跡めぐりに参加して
―東京大空襲についてほとんど知らなかったので大変勉強になりました。
２、トーク集会のご感想・ご意見など
―憲法問題等に宗教者が反戦平和の意思表示をしていると理解していたが、先の戦争にはすすんで協力していた（オウムの論理と同じ）と知り驚いた。
３、全体の企画についてのご意見
―現在（現代）の区内の様子も知る機会がなかった（東村山市在住）ので、現在・当時の有り様を両方知ることができてよかった。
４、「東京都平和祈念館（仮称）」建設をすすめる会の取り組みについて
―広島・長崎の原爆や第５福竜丸の被爆については知る機会があるが、（本など以外では）東京大空襲について学ぶ場がないし、学ぶべき大事件である、と納得しました。実物を見て、学ぶことの意味は大きいと思います。

（男性　Ｍさん）
１、明治座・築地周辺の戦争遺跡めぐりに参加して
―現地に立ち、そこで説明していただいて、歴史が身近になりました。
２、トーク集会のご感想・ご意見など
―お坊さんが平和を願うことがわかり、心強かったです。戦前弾圧を受けた学会が法案に協力するのが理解できません。
３、全体の企画についてのご意見
―初めて参加しましたが、観て聴けておもしろかったです
４、「東京都平和祈念館（仮称）」建設をすすめる会の取り組みについて
―実現したいです。

（男性　６８歳　Ｏさん）
４、「東京都平和祈念館（仮称）」建設をすすめる会の取り組みについて
―実行委員会を立ち上げて今日を迎えられましたか？
　実行委員会をやるなら次回は声をかけてほしい。
５、その他
―都議会で審議を期待します

ることは、いかにも東京が軍事拠点であったから空襲を受けたとの誤った印象を与えることになる。東京大空襲の正当化につながる、と主張。

この論拠には２つの問題があります。

一つは、展示案には、東京大空襲の悲惨な無差別爆撃の実態をむしろ明らかにしようとしている。そのことを歪めて宣伝。

二つは、東京には戦争を推進する大本営や軍事施設、軍需工場など多数あり、まさに東京は政治的軍事的拠点となっていた。むしろ右翼靖国派の論理はこのことを隠ぺいしようとするもの。

２）また彼らは、日本がすすめた戦争はアジアの民族を解放する戦争であった。戦争についての評価は、後世の学者の検討に委ねるべきだと主張。

これについて一つは、戦後の日本政治の原点で、日本政府が無条件で受け入れたポツダム宣言（日本のすすめた戦争が「間違ったものであった」とする）を無視した論理の蒸し返し。

同時に二つは、現実に起こっている戦争が正義のものなのか不正義のものなのかの判断は不明のまま自衛隊をアメリカのすすめる戦争に参戦させようとする論理につながる。

総括：「東京都平和祈念館（仮称）」は、都民や東京都議会全会派合意、東京都などが長年にわたって積み上げて努力の賜物であったこと、これを「凍結」・挫折させてきた都議会内の右翼靖国派の主張は、かつて日本の政府と軍部のすすめた侵略戦争について「歴史認識の違い」とし、国民が真実に目を向けることを恐れ、戦後日本の原点をないがしろにする歴史的な経緯と事実無視の論拠によるもので罪深いもの。

３、「東京都平和祈念館（仮称）」建設問題についての舛添都政の若干の変化

舛添都政は、「東京都平和祈念館（仮称）」について、これまで全く背を向けていた石原都政→猪瀬都政とは若干異なる姿勢を示すにいたっています。

「非常に難しいのは、歴史認識一つとっても、色んな意見の方がいる。どういう選定で資料を選ぶのか、簡単に解決できないと思う。やるとすれば、シンポジウムを開くとか。新しい資料の発掘も、学術研究として研究者や学者に自由にしっかりやっていただき、都は側面から援助した方がいい」（１５年３月９日「朝日」舛添知事公言録）

「広島と長崎の原爆は人類史上、大きな出来事で世界に広がっている。（大空襲で）１０万人の方が亡くなっているわけで、原爆だろうが焼夷弾だろうが違いはない。これからも啓発活動をやっていきたい」「平和祈念館については、１９９９年に都議会の合意を得て建設を進める付帯決議がなされ、都議会の合意がない限りはできない。都議会も都民の代表、私も都民の代表。二元代表で、今のところ、合意が得られない」「なぜ議会が凍結されたかといえば、歴史観の問題。みんなのコンセンサスで、こういう物は展示していい、こういう証言は出していい、というところに落ち着けないのか。歴史論争なしに、戦争の惨禍がそのまま見えるような、そういうところがあっていい。都議会のみなさんにしっかり議論していただきたい」（１５年３月１２日「朝日」舛添知事公言録）

４、憲法破壊・明文改憲の「戦争立法」安倍暴走政治と「東京都平和祈念館（仮称）」建設めざす運動の意義

１）東京がかつての侵略戦争の拠点となって内外に大きな被害をもたらした事実を検証し、全ての犠牲者を追悼し、再び戦争の惨禍を繰り返させない土台を築く意義をもっています。

２）安倍政権は、ポツダム宣言「無知」？＝国民に知らせないまま「戦後レジームからの脱却」を掲げ、現憲法を「押し付け」と攻撃し、今国会で「憲法破壊」の「戦争法案」強行成立を狙っています。こうした情勢のなかで、都立の「平和祈念館（仮称）」建設の運動は、憲法を生かし平和の国際公約を発信する拠点を東京に実現する運動として大事な意義をもっています。

５、いまこそ「東京都平和祈念館（仮称）」建設の世論と運動の高揚させ、実現めざして取り組みを強化しましょう！

著名人９６人の署名提出
一般署名＝第１次集約
９月１５日
ポスターの活用
シンポジウム開催・成功
７月１８日（土）
豊島区勤労福祉会館

東京大空襲７０年・戦後７０年
都内各地春の平和のつどい

東京大空襲から70年の３月８日、「東京大空襲から70年―東京大空襲を語り継ぐ集い～東京大空襲・戦災資料センター開館13周年～」が江東区文化センター・ホールで行われ、５００人以上の参加者で会場があふれました。

オープニングで、「合唱団この灯」が、「生命を生きる」ほか、空襲で家族を失った人々や、亡くなった人々の思いを切々と歌い上げ、聴衆の涙を誘いました。

開会のあいさつで都教組工藤委員長は、戦後教職員組合が掲げてきた「教え子を再び戦場に送るな！」のスローガンを、ふたたび高く掲げ、政府が集団的自衛権を行使するために法改悪をしようとしていることを阻止し、子どもたちに平和な未来を手渡す決意を述べました。

「東京大空襲を語り継ぐ」では、空襲体験者の田近治代さんが、教え子を失った苦しみを語りました。田近さんは、戦争中に江東区の学校で教員をしていましたが、初めて担任を持ったクラスの全員を、東京大空襲により一夜で失いました。その無念さを胸に、今も平和の尊さと命の大切さを語り続けています。

「センターで学ぶ子どもたち」の報告では、日大豊山高校放送部の生徒たちが、映像づくりのための取材を通してセンターで語り部を続けている方々と交流を深め、「２度と戦争をくりかえしてはならない」ことを強く胸に刻んだと報告しました。江東区立第五大島小学校の児童３人は、センターで空襲の悲惨さを学び、平和を守ることの大切さをしっかりと受け止めたことを、作文を読み上げて発表しました。

俳優座代表の岩崎加根子さんは、浅見洋子詩集「独りぼっちの人生（せいかつ）」から、詩の朗読をしました。朗読は、戦争で苦しい体験をした作者の思いが聞き手の胸に迫る、感動的なものでした。

しめくくりの挨拶で「次世代の平和のために」として、東京大空襲・戦災資料センター館長の早乙女勝元さんは、センターの存在と戦争の事実を語り継ぐことが、戦争へのブレーキになることを信じると語りました。

（東京都教職員組合　大山圭湖）

時忘れじの集い

海老名香葉子さん発願による〝時忘れじのつどい〟は、東京大空襲７０年の今年で１１回目をむかえました。

３月９日、時に小雨が降りかかる天候の中でしたが全国から約１２００人の人たちが参加しました。

午前は、上野の寛永寺墓地前の慰霊碑「哀しみの東京大空襲」碑のまえで慰霊のつどい、１１時半から、上野公園内の平和の母子像前で時忘れじのつどいが開催されました。

この日は、戦争で犠牲になった人々の苦しみを思いながら、海老名香葉子さんは、「戦争は絶対してはならない。そのことを後世にも伝えていきたい」との訴えました。

このつどいに参加した高校３年生の佐藤光祈さんが参加記を寄せてくれましたので、以下にご紹介します。

（柴田桂馬　記）

上野“東京大空襲慰霊祭”「時忘れじのつどい」に参加して

自由の森学園高校３年
佐藤　光祈
（高校生平和ゼミナール）

３月９日午前１０時、上野寛永寺付近で行われた「哀しみの東京大空襲慰霊祭」に初めて参加した。生憎天候は曇り、雨であったが、「７０年という節目を迎えても、犠牲者や遺族の悲しみ、苦しみは癒えることはない」ことで、涙を流しているか

のように感じた。

僧侶の方々が読経を唱えて厳かな雰囲気であり、胸を打つものがあった。なぜ１０万人以上の人々が殺されたのか。何故、米軍は非戦闘員を狙ったのか。頭の中で「何故」が繰り返し去来した。

読経の後、海老名香葉子氏から挨拶があった。そのなかで「空襲は卑劣で残虐的であるのに、国や都は何故、大々的に慰霊を行わないのでしょう？空襲で戦災孤児となった私たちは家族が「戦死」ではなく、「行方不明扱い」にされているのです。数多くの無縁仏のため、まとめて行方不明にしたのでしょうか、心の底では戦死したのだと思っています。何年たってもこの気持ちは安らぎません」と述べたのが印象に残っている。今まで忘れ去られた事実を改めて思い知った発言だ。

家族の骨すら判別できない程、炎で焼き尽くされれば、残された肉親の心境は計り知れない。遺体・遺骨が発見されれば、亡くなったのだと認識して葬式をし埋葬が行える。だが、遺体・遺骨が発見されなければ、「どこかで生きている」と思うだろう。でも、１カ月１年経っても戻らなければ、生死は分からず「行方不明扱い」にされる。残った家族にすれば筆舌に尽くし難い苦悩、哀しみを、何年経っても味わうことになる。

そして、に女性、老人、子どもなど社会的に弱い人々が戦争による多大な「銃後の犠牲者」となった。

特に戦災孤児の事は衝撃的だった。子どもは家族、学校にて養育される側であり、自ら生きてはいけない。それが戦争によって一瞬で破壊され、帰るべき場所も頼るべき大人もない中で、子どもたちは、どう生きるのか？

戦争では大人の動向が多く伝えられるが、声を上げたくても上げることのできなかった数多くの子どもたちが存在したことを痛感した。

戦争では何の声も聴かれない子どもや女性たちが翻弄され、命を落とす。この悲劇を多くの人に知ってもらうために、学校教育等で取り上げるべきではないか。

「あと、２９年生きて空襲１００年目を迎えるまで語り継いでいきたい」と海老名氏は語った。戦争体験者が減り、後世に伝える大切さが重要となっている。海老名氏は「自らの肉声で若い年代に伝えたい」と決意している。それ程あの史実を知ってほしい、忘れないでほしい、そして繰り返さないでほしいと、万感の想いが込められているのだ。

自分も高校生平和ゼミナールで戦争を学習したり、証言を聴き取る活動に関わっているからこそ、語り継ぐことで戦争の悲惨さを忘れないようにしたいと、戦争を知らない世代の自分も改めて心中に刻んだ。

１１時半から場所は、平和の母子像・時忘れじの塔に移り、追悼式典が行われた。海老名氏の戦争体験にもとづく本の朗読を中学生が、感想文を小学生が朗読した。

二期会の方と海老名泰葉氏、小学６年生、幼稚園生による鎮魂の想いをこめた独唱、合唱が行われて、体の奥にまで歌声が響いた。

後世に語り継いでいきたい。戦争体験者の証言を聴いてはそう思う。では、どう伝えるかと具体的な方法を考えるにも、頭を悩ます。ただ話を聴くだけではなく、自分たちで歌か朗読、演劇や絵画といった多様な表現で伝えれば、その分多様な人が興味、関心を抱くだろうと考える。音楽に関心がある人に向けて、鎮魂歌を謳うことで関心が向くようにしたり、絵画に関心がある人なら、戦争を描いた絵を紹介することで、興味が湧くようにしたりと、人それぞれ持つ興味、関心に合わせて戦争体験を後世に絶やさないように、

伝えることが大切ではないだろうか。

日本はかつて大日本帝国憲法、治安維持法の下で言論、表現の自由は抑え込まれていた。今は言論、表現で処刑や拷問されることはない。今の日本では伝えたいことが伝えられる時代にいるからこそ、更に戦争証言を語り、表現していくことが戦争で命を亡くした方々への弔いだと思う。

東京だけではなく全国各地の空襲や機銃掃射で多くの方が犠牲となった。本土で日々暮らしていたのに、不意にその日常が断ち切られた。今の日本で、空からの攻撃に脅えていたと言っても、想像はつかない。日々の暮らしの恩恵を享受してこの生活が当たり前だと思っているから、戦時下の生活は想像はできても実際に体感することはできない。

だが、つい７０年前まで物資不足に喘ぎ満足に学ぶことや眠ることが妨げられ、死の恐怖に震えた人々がいたことを忘れてはならない。

再び戦争によって日常が非日常にならないように、戦争の下で立場の低い人々が犠牲にならないようにしたい。

この追悼式典でさまざまなことを想い、考えることができて何よりよかった。

読んでいただいてありがとうございます。

被災７０周年・東京大空襲資料展と追悼集会が台東区で開かる

３月７日（土）〜１０日（火）に、節目の年の「被災７０周年・東京大空襲資料展」が、台東区共催、台東区教育委員会後援で浅草公会堂１階

東京大空襲資料展アンケート

☆Ｉ・Ｔ（女性）（台東区鳥越）
１、資料展は「広報たいとう」で知る
２、２回目の来場です
３、年齢は３０代
４、御意見・感想

６〜７年前にたまたま浅草に来て、この資料展を知りました。

当時も語り部さんから話を聞き、自分の知らない話が多くあり、またこれからの平和のことを強く思いました。その後、その日一緒に来ていた彼は夫になり、昨年は子どもが生まれました。（結婚してから鳥越に住んでいます）自分の街のことを知っておこうと、来て、母になり、自分の街のこと、という視点で展示を見ると、また違った思いになりました。

産後、色々なことがあり、思い悩むことも多かったですが、その時にやはり温故知新だなと思いました。

宗教や党派とか色々なものを超えて戦争のことは語り継がれなくてはいけないと思うし、１０代前半で大きな心に傷を負うことになった方々が、未来のためにこれだけ勇気をふりしぼって語りついでくださっていることに感謝します。

私は近衛兵の祖父（故人）や戦中生まれの父から、古くさい教育の下に育ちました。でも、それを今は後悔していないし、これからの子供たちの未来のことをちゃんと考えられる親でありたいと思います。毎年、この浅草で開催していただいていることは本当に意味があると思います。また、子供が大きくなっていくにつれて、受け取る思いも変わると思います。大きくなってもつれて来たいと思います。

☆Ｅ・Ｙ（女性）（台東区谷中）
１、資料展は（葉書）で知る
２、３回目以上の来場です
３、年齢は３０代
４、御意見・感想

日本は平和な国です。とても平和な国です。こんなに平和な国なのに、毎日、毎日残念な事件が起こります。少年や青年、子供達が人を殺します。なぜこんなに豊かな国に生まれたのにもかかわらず、つまらない事で人を殺してしまったり、事件を起こすのか。戦争により大勢の人々が亡くなりました。生きようとした命がありました。そんな悲劇を経験した方々も今もまだ生きていらっしゃいます。

今、日本が戦争をせず、平和なのは、大勢の人々の無残な死があったからです。もっともっと１人でも多くの人にこの東京大空襲資料展を見に来ていただきたいと思います。私も毎年来ようと思っています。

ギャラリーで開催されました。今年は初日から３日目まで連続の雨もようの天候だったため、来場者の出足が悪く、４日間の総入場者数は５，６６７人でした。

今年の特別企画展示は「狩野光男画伯原画展」でした。１９４５年３月１０日の未明、言問橋周辺で約７、０００人が亡くなられました。江戸狩野派の流れをくむ家系の狩野さんは、その時に脳裏に焼きついた惨状を、後世にその事実を伝えるための決断をされ、戦後５８年経って描きはじめ、その東京大空襲画は１００枚にのぼります。今回は言問橋に焦点をしぼりＢ２サイズの絵を８点展示しましたが、多くの人が食い入るように見ていました。

家族や保護者に付き添われたグループの子ども達の入場者が、例年よりも多く見受けられ、子どもたちは焼夷弾解説パネルや石川光陽さん撮影の写真などの前で、実行委員スタッフの説明を熱心に聴いていました。

観光に来て偶然この資料展を知り入場された人も多く、その中には数十名の外国人もいて、実行委員会作成の『英文リーフ』を見ながら熱心に見学していました。

学童疎開経験者の老人の多くは、疎開コーナー展示の前で周りの人に誰彼となくその体験をかたり、説明スタッフさながらの様子でした。ビデオ観賞・語り部コーナーは毎回人で溢れ、熱心に耳を傾けていました。談話コーナーは、お茶を飲みながら一休みする人達で常時満席となり、交流の場となっていました。

１０日の最終日、台東区が開催した大ホールでの「平和のつどい」終了後、資料展会場は入場者で溢れました。

５階の集会室で３日間の午後行われたイベント企画はどれも大勢の参加者で大好評でした。７日（土）は「浅草ｄｅトークｖol.４〈名前〉と出会いなおす―沖縄と東京の対話」を、８日（日）は「平和寄席」を、９日（月）は「浪曲で戦争を口演」を開催しました。

恒例の「浅草戦跡めぐり」は毎日行われ好評でしたが、小雨と寒さのせいで参加者は例年より少なめでした。

☆Ｙ・Ｔ（墨田区文花）

１、資料展は（通りがかり）で知りました
２、初めての来場です
３、年齢は５０代
４、御意見・感想

これほどの悲劇的な戦争、空襲がこの土地で起きたことを真正面から取り上げた今回の資料展。大変素晴らしいことだと思いました。

現実を直接目にすると胸が詰まる思いで、激しく揺さぶられてしまいました。

二度と繰り返してはいけないとの思いを強く強く感じました。しかしながら、現代進んでいる方向は、あの時の過ちを、悲惨な歴史を忘れ、戦うこと、強いこと、おどすことが正義であるかのような道を進んでいるようで、危機を感じています。

関東大震災の後、治安維持法が作られ、特高警察が庶民に恐怖を植えつけ、中国との戦争を始め、真珠湾、そして３・１０東京大空襲、そして広島・長崎でした。

今また東日本大震災があり、秘密保護法が成立、中国を敵視するような空気が強くなり、憲法改悪、そして……、これを考えると暗い気持ちになります。過ちを繰り返さないため、歴史を今一度学びたいと思いました。

☆Ｙ・Ｈ（女性）

１、資料展はチラシで知りました
２、３回以上の来場です
３、年齢は６０代
４、台東区上野でクリーニング店をしていた父母は東京大空襲をのがれ栃木県に疎開、そこでも空襲にあい、父の田舎、伊豆に戦後過ごしました。

生命は助かったものの全ての財産はやかれてしまい、２度とクリーニング店の土地に戻ることもなく、もちろん開業することもできず、田舎での厳しい生活から私共を育て上げました。

父母が毎夕食ごとに語ってくれた空襲の様子はまるで映像を見るごとくの話でした。

平和な社会になったとはいえ、尊い命、大量殺りくをした戦争は二度とおこしてはならないと、この資料展には毎日来るようにしています。

この場所で父と母に誓うことが供養だと信じています。

ずーっとこの資料展を風化させない為にも続けていただきますよう。

☆Ｙ・Ｓ（女性）（さいたま市見沼区）

１、資料展はチラシで知りました
２、毎年来場しています
３、年齢は７０代
４、大空襲から７０年、永遠に風化させてはならない記憶として、後世の人々に伝えて戴きたいと思っております。

現政権の動きは、とても危険です。「いつか来た道」へ戻ろうとしているように思えてなりません。憲法改正（悪）、集団的自衛権、秘密保護法など、どれも戦争につながるような気がいたします。そうした動きへのブレーキ役としても、貴重な展示と思います。

天窓を拭へ開戦日の近し
波留美

昨年暮れの句ですが、１２月８日が近いだけでなく、次の開戦日が近づきつつあるように思え、詠んだ拙句です。

言問橋際の東京大空襲
追悼碑前での追悼集会

３月１０日（火）午後１時から、隅田公園言問橋際の東京大空襲追悼碑前で、「追悼集会」を開催しました。東京土建練馬支部合唱団･コスモスの皆さんの献歌で開会し、川杉元延実行委員長が犠牲者追悼のあいさつで、言問橋周辺の悲劇と２８回目を迎えた資料展と追悼集会の経緯を話し「戦争被害の事実を風化させず後世に伝えていく」と決意を述べました。高森大乗台東区教育委員長は「子ども達に平和の尊さ、戦争の悲惨さを伝える」とあいさつされ、小池晃参議院議員が来賓のあいさつで、「力を合わせて憲法９条を守り続けることこそ、空襲犠牲者の無念にこたえる道であり、政治の責任です」と述べられました。画家の狩野光男さんは、３月１０日未明の言問橋周辺で自ら体験した悲惨な光景を話し、「私は橋の際の船着き場で奇跡的に助かり、親兄弟６人を探したが、亡くなっていました」と語りました。台東区谷中の片山服恵さんは「私は縁故疎開で千葉に行きましたが、竹やりの訓練ばかりやらされ、体調を壊して谷中に戻っていました。集団疎開していた弟が『家に帰りたい』と綴った手紙など検閲が厳しかったなか親が大事に保管していました。それが開催中の資料展で展示されています」と語りました。東京空襲犠牲者遺族会の葉山美佐子さんは、自分が発行した冊子を示して当時の悲惨な状況や自身の苦難に満ちた体験について語りました。最後に参加者は戦争犠牲者に黙祷をささげ、碑前に献花して流れ解散しました。北海道をはじめ遠方から参加された人もいて参列者は１７０名でした。
（東京大空襲犠牲者追悼・記念資料展実行委員会）

東京大空襲犠牲者墓誌除幕式
江東区・森下５丁目町会

３月８日（日）午前１１時から、江東区森下５丁目の大横川を跨ぐ猿江橋の西にある八百霊地蔵尊の公園で、東京大空襲犠牲者墓誌の除幕式が行われました。

この墓誌には、森下５丁目に住んでいて東京大空襲で犠牲となった７８６名のお名前が刻銘されています。

この日は、冷たい雨が降っていましたが、町会関係者をはじめ、数百人の人々が参列し、墓誌と八百霊地蔵尊の前で犠牲者の冥福と平和への願いをこめて焼香しました。

墓誌の由来

７０年前の１９４５年３月１０日未明の東京大空襲で現在の森下５丁目は火の海と化し、８００余名の犠牲者をだ

しました。
　この空襲当時町会長だった島田甚蔵さんは戦災直後に焼失を免れた戦時国債購入債名簿をたよりに戦災死没者の過去帳をつくりました。（現在、東京大空襲・戦災資料センター３階に展示＝幅２０㎝、長さ１０・８ｍ）
　１９５７年（昭和３２年）、１３回忌にあたって当時の町会庶務担当の徳田恭介さんが、「過去帳」とあらたに判明したお名前をあわせて７７３名の「高橋五丁目戦災犠牲者俗名録」をつくりました。
　その後、同町会有志が戦災犠牲者氏名を刻銘した墓誌を建立することを企画し、２０１４年（平成２６年）１月、そのための寄付をよびかけたところ、同町会や遺族、他の町会等などから１２５件の協力の申し出でがあり、８日の除幕式を迎えたということです。
　刻銘されたお名前には、こうした運動の中で新たに１３名の名前が判明し、合計７８６名になったということです。
　この墓誌の建設には、清水健二（森下五丁目町会長）、古川昭吾（森五笑睦会長）、五十嵐キヨノ（森五婦人部長）、稲葉三千夫（前森下五丁目町会長）、簗山　実（元森下五丁目町会長）の５氏が建設発起人となっています。
（柴田桂馬　記）

３月１０日横網町公園署名・宣伝行動

　「東京都平和祈念館（仮称）」建設をすすめる会は、「東京都平和の日」の３月１０日、都立横網町公園（墨田区）で、宣伝・署名行動をおこないました。
　横網町公園には、１００回以上の米軍機の空襲で、無名のままにされてきた１０万５４００体の犠牲者が納骨されており、毎年３月１０日には空襲犠牲者の遺族や関係者が多数、冥福を祈って焼香に訪れます。
　この日は、時々小雨が降る寒い日でしたが、東京大空襲７０年ということもあって多数の方が訪れていました。
会からは、東京都歴史教育者協議会の大坪庄吾さん、扇谷道子さん、日中友好協会都連の平山百子さん、東京原水協の柴田桂馬さんが行動に参加し、約１時間半、訪れる人々に「東京に都立の平和祈念館を１日も早く建設を」と署名を呼びかけました。
　訪れた人の中には、「家族は皆空襲で死にました。毎年お参りに来ていますが、どうして震災の犠牲者を祀っているところに間借りするようにして空襲犠牲者の遺骨が納められているんでしょうか。国は戦争への反省がないからでしょうか」「都は空襲で犠牲になった人の名簿をとじ込んだものを、あの防空壕のようなところにおいているけど、中に何を書きこんでいるのか私たちには分からないようになっているし、戦死した人の名前しか入っていない骨壷をみせられているようなもので、都の誠意が疑われます」「原爆の被害をうけた広島でも、長崎でも、そして地上戦のあった沖縄にも平和祈念館が建てられているのに、東京にはないなんて、なんて情けないんでしょう」などと語っている人が多くいました。
　この日寄せられた「東京都平和祈念館（仮称）」建設の署名は９３名、カンパ１０００円でした。ビラは午後の言問橋での追悼集会でも配布し、６００枚が配布されました。
（柴田桂馬　記）

あきる野での東京大空襲体験画展

毎年のことですが、あきる野原水協では、４月に第五福竜丸に関連する被災事件か、東京大空襲に係わる戦争被害を取り上げて、展示会を市役所コミュニティーホールで開催しています。

今年は、すみだ文化資料館のご協力を得て、４月１３日から１７日まで５日間、約９０点を超える体験画を展示する事ができました。

なかでもビデオ映像による被災者の証言は、見ている人の心に痛いほどの感銘を与えたようです。

また体験画の提供者の中に、あきる野市に在住している方（宮本謙三さん）がいらっしゃったことも、大変身近に感じられた事の要因であろうかとも思っています。そしてさらに今年の１月２０日に発行された決定版　東京空襲写真集を閲覧できるように設定したことも、単なる絵空事に終わらせないことにやくだったかなかなと思いました。

できれば来年の４月にもお世話になりたいと考えています。

（あきる野原水協理事長
瀬沼辰正）

【感想文】

◆７０歳代　女性

戦火のなかひどい目にあった人びとの苦しみを知り、戦争は絶対にしない世の中にして欲しい。このような展覧会を広く続けてほしい。

◆４０歳代　女性

日本は、アジアに対して加害国であるが、今なお反省していない。しかし、アメリカからは、たくさんの被害をこうむっているのに何も責任をとらせることはない。おかしい！　平和の為には戦争や、おっかないリーダーは必要ありません。たくさんの人の命をうばう野蛮な行為になんだかつらい気持ちになりましたが、改めて、平和の尊さの維持の必要さを感じました。

◆７０歳代　男性

私は１歳の時に空襲にあい母の背におわれて、多摩川の土手に逃げたときかされた。こうした空襲は、日本軍が中国の重慶で行なったのが最初という。戦争は一般人も含めすべてをまきこんでいく。そして、家族を殺された「うらみ」は、生涯・代々続く。殺してはならない。戦争してはならない。絵を見ながらつくづく思った。企画していただきありがとうございました。
追記：戦争の責任は、だれも取ろうとしない。それは今も同じだ。安倍も同じだ。

◆４０歳代　男性

絵画は、写真よりも生々しく正視できないものもたくさんありました。東京は、マスコミ関係者が多くいたので、写真も多く残っていると思いました。写真集と絵画と合わせて観る事で、東京大空襲の悲惨さが、よりよく理解できたと思います。今も、中東で空爆が続いていることを思うと言葉もありません。

◆６０歳代　女性

写真と違って絵というと、何か生々しく、白黒でなく、カラーなのが妙にリアルな感じで、胸に迫って来るようです。もはや絵の上手、下手ではありません。描いた方々の目を通して感じたままに私たちに訴えてくるからかもしれません。思い出したくもない経験を二度と悲惨な戦争を繰り返してほしくないと言う思いをともに、私たちは重く受け止めなければならないと強く思いました。

◆７０歳代　女性

昭和２０年は、４歳でした。地方にいたので情報が何も私には入ってきませんでしたが、後日、親が家族の誰かに戦死の話をしているのをたくさん聞かされました。このように描いて残してくれる方にとても感謝すると共に、自分の出来る範囲でこのような戦争が起きないように努めたいと思いました。一人でも多くの方がこれらの絵を見て頂きたいと願わずにいられません。

第２１回 ４・１３根津山 小さな追悼会

４月１３日（月）午後２時から、豊島区南池袋公園内の豊島区空襲犠牲者哀悼の碑前で開催されました。

この追悼会は１９４５年４月１３日にアメリカのB２９爆撃機による城北大空襲で、当時の区の人口７０％にあたる１６万人が被災し、７７８名が命を奪われたことに因み、名も知れず葬られた人びとの心情を思い、２度と町を戦火にさらしたくないということから、５０周年を期して始められ、毎年実行委員会が主催、豊島区と豊島区町会連合会が後援してつづけられてきたものです。

当日は、あいにくの雨天でしたが高野之夫豊島区長をはじめ多くの人々が雨傘をさして集まり、それぞれ平和を祈念しました。

（柴田桂馬　記）

清瀬市平和祈念展等実行委員会

清瀬市で行っている「清瀬市平和祈念展等実行委員会」（以下「平和実行委員会」と呼ぶ）の取組みについて、紹介したいと思います。この紹介は、私の個人的な視点からの報告なので、文書責任はすべて私にあります。

１９８２年（昭和５７年）清瀬市議会が「非核清瀬市宣言」してから30年以上がたちます。東京都で平和市長会議加盟自治体は、43自治体（２０１５年２月現在）です。

清瀬市は戦時中、８０００人ほどの村で、青山国民学校（港区）から７９人もの学童疎開が中清戸の全龍寺、下清戸の長命寺、下宿の円通寺にありました。集団疎開は、子供たちの安全を確保するということより、空襲の時に足手まといになる子供たちを疎開させることで、大都市の防空体制の強化を目指し、子供たちを将来の兵力として温存することがねらいでした。

東京大空襲の被災者が清瀬病院（現在の国立看護大学校）に運び込まれ手当てを受け、亡くなった身寄りのわからない遺体は圓福寺に埋葬されました。中島飛行機武蔵製作所（武蔵野市中央公園）が近くにあることにより、１９４５年４月に清瀬が空襲され、清瀬病院に爆弾が落とされ、建物の一部が破壊され患者２名が死亡しました。また、防空壕に入っていた１８名の女性と子供たちや住民が犠牲になっています。

清瀬病院を爆撃したＢ29が東村山市の秋津で墜落していますが、亡くなった１１名の米兵の霊を慰め、永久の平和を祈念して、１９６０年「平和観音像」が建立されました。

以上の内容は、平和祈念等実行委員会が史実をまとめたパンフレットとDVDから抜粋したものです。平和実行委員会は、毎年８月と３月にイベントを計画し、そのイベントの２週間前から平和を訴える展示会を実施しています。

平和実行委員会は、清瀬市が年間３０万円を予算化し、市民に企画・実施を委嘱して、運営されています。今年は、敗戦７０周年の節目であるため、さらに５０万円を追加し、8月に市民に広く平和を訴える企画を計画しています。その他、ピースエンジェルと言って、小学生から中学生まで毎年１０名ほどの生徒を広島に派遣し、戦争（被爆）の悲惨さと平和の尊さを学習していただいています。その報告を夏の平和実行委員会の平和事業の時にしてもらい、市民に清瀬市として平和事業の取組みをアピールしています。

「戦争立法」を閣議決定した自民党・公明党の憲法無視の暴挙は、二度と戦争をしないと誓った９条を破壊する以外の何物でもありません。平和を希求する1人として、「人を殺す、殺される」立法をストップするため奮闘する決意です。

２０１５年５月１６日
小野塚洋行

5・25 中野空襲を語り継ぐ会

５・２５中野空襲を語り継ぐ会は、５月９日（土）午後、中野区商工会館で集会を開きました。

集会では、２人の体験者のお話と歴史教育者協議会会員の東海林次男さんが「ストップ！　戦争国家への道―中野が焼けた７０周年にあたって―」題して講演をしました。

２人の空襲体験者は５月２５日の中野空襲の状況をつぶさに報告、再び日本を「戦争する国」にしてはならないと訴えました。

東海林さんは、戦中は豊多摩刑務所（戦後・中野刑務所）などがあり、ここには１９２５年の治安維持法制定以降、大杉栄、荒畑寒村、亀井勝一郎、小林多喜二、三木清、河上肇、戸田城聖などが収監されていた。また陸軍中野学校など軍の特殊部隊の養成・教育機関も置かれていたことなど戦争推進拠点となっていた実態を話され、平和を守る立場に立って戦争遺跡の保存、空襲被害の状況を語り継いでいくことの重要性を訴えました。

５・２５中野空襲を語り継ぐ会は、その後中野区の担当者と話し合う機会をつくり、空襲で亡くなった人の慰霊碑の建立や空襲記録の保存など要請していく予定です。

東京都資料展

東京都は、３月１０日の「東京都平和の日」に都庁第一本庁舎で記念式典を開催するとともに、東京芸術劇場、府中市生涯学習センター、瑞穂町などで東京空襲資料展を開催しました。

東京芸術劇場では、３月５日～１０日までの６日間、地下１階のアトリエウェストで資料展が開催されていました。

私は、１０日の夕刻見に行ってきました。

室内には、戦時中の生活資料とともに、空襲による破壊された建物や疎開児童のＡ３判程度の写真など何枚かが展示されており、部屋の奥では、証言映像のビデオが上映されていました。

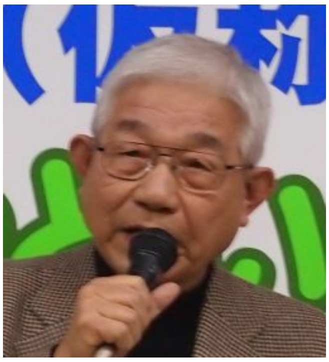
昨年は、横網町公園の復興記念館の１階の一部に写真や戦時中資料の展示がされており、片隅で椅子が４つ５つおかれてテレビで証言映像が上映されていましたが、今年の場合は、椅子も１０脚くらい増やされて、壁面にスクリーンが張られ、ＤＶＤで証言映像が映されるというように一定の拡充がみられました。

しかしながら戦時中、東京が１００回を超える空襲をうけたこと、３月１０日には３２５機というＢ２９戦略爆撃機が来襲し、１７８３トンもの焼夷弾・爆弾が投下され、２時間半の短時間に１０万人もの人の命が奪われたという、国際法から見ても非道な事実を告発し、再びあの惨禍を繰り返させてはならないといった決意を語り継ぐことのできる内容にはなっていませんでした。

これが東京大空襲７０年、節目の空襲資料展かと考えさせる「東京空襲資料展」でした。

（柴田桂馬　記）

高岡岑郷氏　逝去



高岡岑郷氏が６月26日午後10時５分逝去されました。79歳。

同氏は、「東京都平和祈念館(仮称)」建設をすすめる会の創立以来、東京革新懇を代表して世話人となり、対都交渉、署名運動、フィールドワークなどに積極的に取り組まれきました。

最近では、３月６日夜、浅草公会堂で開催した「ふたたびこの国を火の海にさせないために！戦後70年・戦争被害のすべて解決を！大集会」の実行委員会に加わり、成功のために全力をあげて活動されました。

また、「東京都平和祈念館(仮称)」建設をすすめる会の会報30号（２０１４年２月27日）の巻頭言に、『断じて、「戦前」は迎えない　東京に「平和祈念館」建設を！』と題する詩を寄稿されました。

生前のご活躍に深く敬意を表しながら、心からご冥福をお祈りいたします。

なお、葬儀は代々幡斎場で、７月３日（金）午後６時から通夜、７月４日（土）午前９時半から葬儀が執り行われました。

都内各地の夏の平和展など

三多摩

第３回　三多摩平和交流会—戦争を記憶し、三多摩から平和な未来を考えよう—

【開催期間】
７月４日（土）～５日（日）
【開催場所】
立川市柴崎学習館
【主催】
名称の実行委員会
永元　実
☎・FAX
０４２－５３６－２０３８
【資料代】８００円
【主な内容】
◆公開します「三多摩空襲犠牲者名簿１５６８名」
◆４日（土）青年・学生企画
講演とシンポジウム
「戦場のジャーナリスト
志葉玲と語る集い」
◆５日（日）
○講演
「多摩地区空襲犠牲者の調査記録」
三村　章氏
（元「多摩地区の空襲犠牲者を確認・調査する会」会員）
○私の空襲体験より
黒柳美恵子（「いのはな会」遺族会会長「中央本線いのはなトンネル４１９列車空襲（八王子・高尾）～同乗の姉を失って」
○参加者のみなさんとのフリートーク

小平市

２０１５「平和のための戦争展・小平」—戦争のない世界をめざして—

【開催期間】
７月３１日（金）～
８月２日（日）
【開催場所】
小平市中央公民館ギャラリー
【入場　無料】
【主催】名称の実行委員会
【連絡先】
０９０－７９４８－７５９９
西村
【展示内容】
◆小平と戦争
◆戦争に反対した人びと
◆日本国憲法を考える
◆基地の現状
◆チェルノブイリから福島へ
パート３
【特別企画】
◆太田治子さん
講演「作家と戦争」
８月２日（日）午後１時半
中央公民館２階ホール

渋谷区

被爆・戦後７０年　核兵器のない世界・原発ゼロ
第２６回「渋谷原爆写真展」～平和のための戦争資料展～

【主催】名称の実行委員会
【開催期間】
８月１日（土）～２日（日）
【開催場所】上原社会教育館
【入場無料】
【連絡先】03 - 6304 - 2315
東京土建渋谷支部
◆８月１日（土）午後１時半
講演：「山の手大空襲と渋谷の戦跡
講師　歴史教育者協議会
常任委員　東海林次男氏
◆８月２日（日）午後１時
被爆者の証言
練馬被爆者の会副会長
東條明子氏
記念講演
「被爆・戦後７０年の日本のいま」
講師　歴史教育者協議会
前委員長　石山久男氏
【展示】
＊ヒロシマ・ナガサキ「原爆と人間」
＊被爆・戦後７０年の日本
＊ニューヨークでの核不拡散条約（NPT)再検討会議報告
＊復刻版「戦時中の実物資料」
＊アメリカ軍の無差別爆撃・表参道周辺の空襲被害
＊山の手大空襲「写真で見る渋谷の被害」
＊いわさき・ちひろ「平和パネル」
＊ビキニ水爆実験と第五福竜丸
＊写真で見る「渋谷の学童疎開」

あきる野市

新・原爆と人間展

【開催期間】
８月１０日（月）
午前１０時～午後５時
１１日（火）、１３日（木）
午前８時半～午後５時
１４日（金）午前８時半～午後２時半
【開催場所】
あきる野市役所コミュニティーホールの一部

【主催】
原水爆禁止あきる野協議会
【連絡先】
０４２－５５９－０３５４
【展示内容】
戦争の惨禍、平和への願いを込めた絵画など約９０点

品川区

第３３回しながわ平和のための戦争展

【開催期間】
８月１３日（木）～１７日（月）開場１０時～１９時（１６日、１７日は１６時まで）
【会場】品川区民ギャラリー（イトーヨーカドー８階、JR大井町線大井町駅下車３分）
【入場　無料】
【主催】名称の実行委員会
【連絡先】
西條明子
０３－５７４２－７５６３
扇谷道子
０３－３７２７－８３８２
【展示】
◆１３日～１６日
＊侵略戦争とアジア
＊日本国憲法と集団的自衛権
＊「戦後７０年」を考える他
◆１７日
＊小島儀一さん　城南空襲絵画展と証言
【催し】
◆１４日夜、別会場で講演
金子勝さん（交渉中）
◆１５日、１６日午後：紙芝居、講演他

中央区

平和プラザ２０１５平和をながう中央区民の戦争展

【開催期間】
８月２１日（金）
１３時～２０時３０分
８月２２日（土）
１０時～１８時
【会場】
月島社会教育会館４階ホール
【入場　無料】
【主催】
平和プラザ２０１５実行委員会
【主な展示】
＊日中１５年戦争の真実
＊中央区と戦争（築地警察での小林多喜二虐殺や明治座の空襲など）
＊私たちの街・月島の歴史を知ろう
＊月島に住んだ反戦反骨の自由律俳人・橋本夢道
＊現代の戦争（辺野古新基地建設やオスプレイの配備など）
＊軍隊のない国・コスタリカに学ぶ
＊新婦人のみなさんの平和メッセージ他
【特別企画】
◆憲法サロンin月島「私、何ができるの？憲法が壊されないために」
＊お話　黒澤いつきさん
（明日の自由を守る若手弁護士の会共同代表）
＊２１日（金）
１８時半～２０時半

◆講演　「あなたはこのごろ、平和についてどう考えてる？—戦後７０年、再び戦争をしないために」
＊お話　浅井基文さん
（元外務省中国課長、国際政治学者）
＊２２日（土）
１３時半～１６時

足立区

第２８回足立・平和のための戦争展

【開催期間】
８月２１日（金）
～２３日（日）
午前１０時～午後６時
（最終日は５時終了）
【会場】　Lソフィア
（東武線「梅島駅」下車徒歩３分）
【入場　無料】
【主催】　足立平和のための戦争展実行委員会
（☎03－3849－0297）
【後援】東京都教職員組合足立支部
【主な内容】
■展示
◆１階画廊：
①アジア太平洋戦争をふりかえる
②足立の戦時（空襲、学童疎開など）
③自衛隊はどう変わるのか
④沖縄問題
◆３階壁面：市民公募の平和美術文芸コーナー
■イベント
◆３階第１学習室
＊８月２１日（金）午後２時～紙芝居と映画を見る集い
紙芝居：日本軍慰安婦問題
映画：火垂るの墓（アニメ）
＊８月２２日（土）午後１時半～原水爆禁止世界大会の報告・記念講演と平和コンサートの集い（会場は足立教育会館）

講演：山田敬男さん（日本現代史研究者）「戦争法案の問題」
コンサート：足立ピースフラワー合唱団
＊８月２３日（日）午後２時～戦時証言を聞く集い
証言：石川千代子さん「足立の空襲」/島田初代さん「シベリア抑留の父の死」

大田区

第３６回
大田平和のための戦争資料展

【開催期間】
８月２１日（金）
～２３日（日）
２１日は１４時～１８時
２２日は９時半～１８時
２３日は９時半～１６時
【開催場所】
大田区民プラザ
（多摩川線下丸子駅前）
【主催団体】
名称の実行委員会
【連絡先】
大坪庄吾
☎・FAX
０３－３７５１－６９７１
【入場　無料】
【主な内容】
日本がたどった戦争への道
戦後７０年　あやまちをくりかえさせないために

北　区

第２１回平和のための北区の戦争展

【開催期間】
８月２２日（土）～
２３日（日）
【会場】北とぴあ地下展示場

東村山市

核兵器廃絶と平和展

【開催期間】
８月２４日（月）
～９月１日（火）
【主催】核兵器廃絶と平和展実行委員会
【後援】東村山市議会、東村山市教育委員会、東村山市社会福祉協議会
【入場　無料】
【開催場所】
◆展示：東村山市役所いきいきプラザ１階
８時３０分８時～１７時
（土日休館）
【展示内容】
広島被爆現物資料、原爆写真パネル、原爆関係図書の展示、平和の絵手紙など
【サロンコンサート】
東村山市役所いきいきプラザ１階
８月２８日（金）
１２時２０分～１３時
【平和の集い】
富士見公民館ホール
８月３０日（日）
１３時半 ～１６時
【連絡先】東村山市役所市民部市民相談・交流課
０４２－３９３－５１１１
内線２５５２/２５５３

江戸川区

第１５回　２０１５年　平和のための戦争展　in　江戸川―「戦争で　平和はつくれない」―

【開催日時】
８月２９日（土）
１０：００～１９：００
８月３０日（日）
１０：００～１７：００
【開催場所】
タワーホール船堀　１階
展示ホール１
【主催】平和のための戦争展実行委員会
【連絡先】江戸川区松本１－２－３７江戸川教育会館内
（３６７４）２５０５
【入場　無料】
【その他】
・講演『現在講師依頼中』
・パプアニューギニア遺骨収集団の報告
・「７０年目の証言ー母さんすまなかった」ＤＶＤと語り
・東京大空襲の絵（５点）
・沖縄戦
・広島・長崎

世田谷区

第２１回世田谷公園
原爆写真展

【開催日時】
８月３０日（日）午後１時から８時まで
【開催場所】
世田谷公園：「平和の灯」周辺＝世田谷区池尻１丁目）
【入場　無料】
【連絡先】
三軒茶屋地域原爆写真展実行委員会
世田谷区三軒茶屋
１－６－１１
電話
０３－５４８１－２９２８
（高嶋）
【主な内容】
◆広島・長崎原爆写真、東京大空襲、沖縄地上戦などの写真展示
◆アニメ映画「おこりじぞう」

上映など。

７０年前、広島、長崎に落とされた１発の原爆が、その年のうちに、子どもや女性、お年寄りも含め２０万人の命を奪いました。無差別大量破壊兵器の核兵器を二度と人類のうえに落としてはなりません。人類の叡知は、毒ガス兵器、化学兵器の使用を犯罪と断定する条約をつくり、その使用を抑えてきました。原子兵器・核兵器を使用禁止にすることが人類の最大の叡知の発揮です。いま、世界中の人々が自覚し、核不拡散条約から核兵器全面禁止条約に向かいつつあります。私たちは世田谷の地で「ヒロシマ・ナガサキを二度と地球上で繰り返さない」、被ばくの実相を広く伝えていきます。ぜひ、ご覧ください。

立川市

平和をめざす戦争展in立川

【開催期間】

９月４日（金）～６日（日）

【会場】

立川リスルホール（市民会館）

【入場　無料】

豊島区

豊島区平和のための戦争展

【開催期間】

１０月１０日（土）～１１日（日）

【開催場所】

豊島区民センター

御礼

皆さまのカンパでポスターをつくりました。

職場に、ご家庭に、団体事務所に、お店に、平和のための戦争展の展示会場に貼りだすなどご活用お願いします。

カンパ集計は次号でご報告させていただきます

東京空襲犠牲者遺族会が総会開催

東京空襲犠牲者遺族会は５月29日（金）午後、台東区民会館で第15回総会を開催しました。

活動報告にたった牛山鈴子事務局長は、２０１３年５月8日、最高裁の不当な「棄却決定」に抗して、原告団とともに日本弁護士連合会の人権救済委員会に「救済申し立て」をおこない、自らの体験を土台に、弁護団の指導・援助をうけながら、また多くの平和を願う団体や支援者と連帯して国の責任を追及し、東京大空襲訴訟への支援と共感の輪をひろげ、世論に支えられて奮闘してきたと、これまでの活動を総括しました。

そして、東京地裁の判決のなかで、①「原告らのうけた苦痛や労苦にははかり知れないものであったことは明らかである」「救済や援護を与えることが被告（国）の責務である」と述べ、実態調査、死亡者の埋葬……などは「国家の道義的義務であるという余地は、十分にあり得るものと考えられる」、国民自身が自らの意思に基づき解決すべき問題として「すなわち国会が様々な政治的配慮に基づき立法を通して解決すべき問題」と指摘していることを「かちとった成果」として自信をもって運動の力にしていくこと、全国空襲被害者団体連絡協議会(全国空襲連)と一体になって国会向け署名（30万人）の取り組みなど立法運動を推進していくこと、空襲死者の氏名記録、「東京都平和祈念館（仮称）」建設、「東京都慰霊堂」が参拝者の希望に沿ったものになるよう求めていく、区市町村議会に対して「援護法等立法化を求める意見書」の陳情をすすめていくなどの活動方針を討議・確認しました。

総会では、16人の世話人と2人の会計監査を選出しましたが、会長などは6月13日の世話人会で選出しました。

新たに選出した役員は下記の通りです。

会　長　星野ひろし

副会長　藤原　進

副会長　榎本喜久治

事務局長　根本徳三

事務局次長　鷲頭一男

事務局次長　西沢俊次

他世話人

青木佳子、足立　亘、

稲葉喜久子、遠藤栄一

大竹正春、柴田桂馬

永井欣一、永尾寿孝

橋本代志子、山本唯人

会計監査

田中収蔵、河野　先

戦争いやだ！　足立憲法学習会資料

足立にもあった戦争（２）

高橋俊敬
特定医療法人財団健和会
医師部事務局長

この報告は前号の高橋俊敬さんのレポートのつづきです。

前号では「足立にもあった戦争（１）」と題して詳細なレポートを寄せて下さいましたが、そのレポートの巻末で、当時の日本陸軍の高射砲部隊の装備の主力となっていた八八式七糎野戦高射砲では、「高度１２０００ｍの飛行高度のＢ２９にはとどかなかっただけでなく、破片がまき散らされて落下するため危険ですらあった」とのべておられました。

以下はそのレポートの続きです。

八八式七糎高射砲の全体写真が「不許可」となり検閲を通らなかった理由について、僕は会場で説明しました。

それは、一橋大学の日本現代史の教授だった故藤原彰先生の「日本軍事史（上巻）」（社会批評社）に明らかにされているのですが、日本軍の主要兵器は大半が欧米メーカーの模造品だったからなのです。つまりはコピー品ということです。

だから、明らかにコピーと判明するような写真は絶対に「不許可」とされたのです。戦時中とはいえ、バレれば、多額の損害賠償金が請求されただろうし、何よりも「世界に冠たる皇軍」がコピー品ばかりの兵器であると国民に知れたら、戦意も失われることにもなり、とても立場が悪かったためです。「鬼畜米英」の兵器をマネしています、なんてことになったらシャレにもなりませんからね。

高射砲はドイツのクルップ社の模造品ですし、ゼロ戦の２０ﾐﾘ機関砲は、アメリカのブローニング社の模造品。しかも、当時の日本の冶金学、金属加工学の水準は低く、ゼロ戦の２０ﾐﾘ機関砲の射弾は右側に曲線を描いて曲がってしまうクセがありました。だから、ベテランはその曲がる直前に当たるように敵機を射弾が直進する１００ｍ以内に追撃してから発射していたのです（坂井三郎「大空のサムライ」）。

コピー品も満足に作れないどころか、ライセンス生産が許されたものですら、設計図通りに作れませんでした。典型的なものは、陸軍の「飛燕」です。日本軍初の水冷エンジンを搭載した戦闘機でしたが、エンジンはドイツのダイムラー・ベンツ社の開発品で、ドイツではメッサーシュミット戦闘機に搭載されたエンジンでしたが、詳細な設計図がありながら完全なコピーが出来なかったのです。それは、複雑なエンジン構造とエンジン本体の合金の調合、固いエンジン本体を成型する加工技術の未熟さなどが原因だったのです。

だから、「飛燕」の生産ラインからは機体だけがどんどん出来て、エンジン搭載を待つのみという状態でした。

末期には、もうエンジンが出来るのが待てないために、川崎航空機が作製したハ４０という出力の弱い空冷エンジンを搭載し、「五式戦」として防空戦用に約４００機が生産され、柏防空隊や成増防空隊に配備され、Ｂ２９の迎撃に活躍しました。

古今東西、「我が軍の兵器は世界一」と教育しますから、こんな当たり前なことも、前線に出て初めて知ることになりました。

僕の伯父はインパール作戦の生き残り（機関銃中隊で日本に帰れたのは伯父ともう一人だけなそうです）で、ビルマで鹵獲されたイギリス軍のトラックを運転した時に「何て馬力だ！」と日産のダットサンとの余りの違いに驚いたそうです。

しかも、重機関銃の発射速度も速くて正確。「これじゃ勝てないナ」と思ったそうです。

実際、日本軍の九二式重機銃は、太平洋戦線のアメリカ兵には「ウッドペッカー」（＝キツツキ）と呼ばれていたそうです。

木に穴を掘るあのキツツキのようなゆっくりした発射音だったからです。

これほど、兵器の優劣に大きな格差があったのです。何も知らされなかった日本兵が哀れなのです。

都立第五福竜丸展示館

「知らない人には、心から告げよう。忘れかけている人には、そっと思い起こさせよう。」

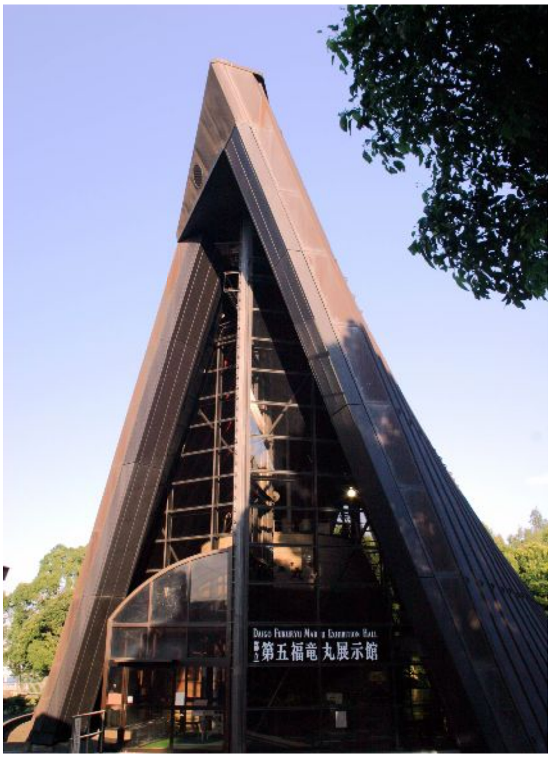
かつては都内で出されるゴミの処分場だった東京・夢の島。いまでは四季折々の花が咲く緑豊かな公園となり休日には行楽客で賑わいます。その夢の島公園の一角に第五福竜丸は保存されています。

１９５４年にアメリカが西太平洋マーシャル諸島で実施した水爆実験に遭遇し「死の灰」を浴びた木造漁船第五福竜丸は、１９６７年に廃船処分となり夢の島に打ち捨てられました。うずたかく積み上げられたゴミの中で今にも沈みそうになっていた第五福竜丸は、核開発とその被害、水爆の時代の脅威を伝えるシンボルとして平和運動や市民のとりくみにより保存され、1976年に都立第五福竜丸展示館が建設されました。

第五福竜丸を覆う建物は、船を包み込むドッグのような構造です。木々に囲まれた公園の中にあって、二枚貝を合わせたような赤茶色の建物の中に大きな木造船が展示されている光景は公園を訪れる人びとにも興味深く映るようで、予期せぬ被ばく木造船との出会いに驚く声が館内に響きます。子どもたちも自由に出入りしながら大きな木の船の下で絵を書いたり館のスタッフに質問を投げかけてきたりします。

館内では、福竜丸の被ばく、乗組員の症状、久保山さんの死、原水爆禁止運動、そして世界の各兵器の現状や核実験について展示・解説し、福竜丸の甲板に降り積もった「死の灰」の実物や当時使用されたガイガーカウンター、入院中の乗組員に宛てられた手紙などの資料もあり、甲板には延縄の漁具なども展示しています。特別展は年に2度ほど開催し、昨年度は「黒田征太郎『フクリュウマル』」展、「ゴジラと福竜丸～想像力と現実～」展など、アートや表現の分野にも力を入れてきました。

また、毎年春と秋の修学旅行シーズンには多くの小中学生が訪れ、ビキニ水爆被災や戦後の核開発について学んでいきます。学校の見学は年間約４５０校にも及びます。展示館では希望する全ての見学団体にボランティアガイドから説明をしています。小学生には3メートルもあるマグロ



の絵を見せると「わあ、大きい！」と歓声が上がります。

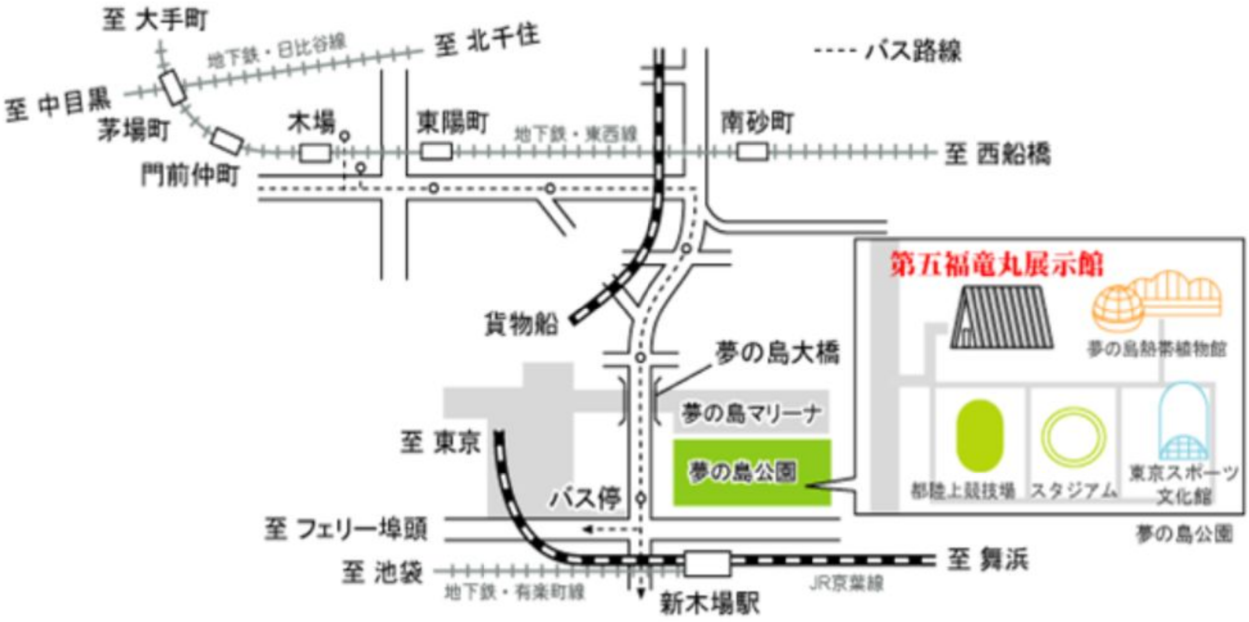
館内には生徒たちが平和を祈ってつくった折り鶴がずらっと並び、時には生徒たちの平和宣言の発表や船に向かって合唱をしていく学校もあり、賑やかです。

来年は展示館開館４０年となります。さらにその翌年には第五福竜丸建造70年という節目を迎えます。建物は老朽化が進み、今後のメンテナンスや船体やエンジンの補修などの検討が課題になると思われます。木造船建造の技術は失われつつあり、戦後復興期に遠洋漁業に従事した木造漁船で現在残されているのは第五福竜丸1隻のみです。被ばく船としてだけでなく、「産業文化遺産」として広く発信していきたいと思います。

一昨年1月、通算来館者数が５００万人を数えました。地球規模の課題である原水爆の脅威に対して、それを生み出した我々人類がどう取り組むべきなのか、この小さな展示館から核兵器廃絶、平和への願いを発信して行きたいと思います。核も被ばくもない世界に辿り着くまで、第五福竜丸の航海は続きます。（第五福竜丸展示館　蓮沼佑助）

【お問合せ】
公益財団法人第五福竜丸平和協会
〒136-0082　東京都江東区夢の島2-1-1　夢の島公園内
電話０３-３５２１-８４９４
FAX ０３-３５２１-２９００
Mail fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp
開館時間 9：30－16：00
月曜日休館（祝日は開館し翌日休館）
入館無料
※ガイドをご希望の場合は予めご連絡ください。

【アクセス】
■電車・バスの場合
東京メトロ有楽町線、JR京葉線、りんかい線、『新木場駅』下車、徒歩13分
都営バス「夢の島」バス停下車、徒歩5分
■首都高速湾岸線東京方面からの場合
新木場出口より湾岸道路（国道３５７号線）を東京方面へ進み、夢の島交差点右折、２つ目の江東区夢の島競技場前の信号を右折



シンポジウム戦後70年、いまこそ都立の「平和祈念館(仮称)」を！

日時　７月１８日（土）
　午後１時開場　１時半開会
会場　豊島区勤労福祉会館
　６階大会議室
　豊島区西池袋２－３７－４
　電話０３－３９８０－３１３１
　池袋駅南口下車徒歩約７分
資料代　８００円

★オープニング　合唱団「この灯」の合唱

★コーディネーター
糀谷陽子さん＝元東京都平和祈念館（仮称）建設委員。中学校教師）

★パネリスト

孫崎　享さん：テーマ＝日本のすすめた戦争とポツダム宣言(城西国際大学大学院人文科学研究科講師。東アジア共同体研究所理事・所長)

東海林次男さん：テーマ＝戦後70年、東京空襲の事実とその継承を考える(東京都歴史教育者協議会会長)

★参加者発言・交流

かつて日本が中国等アジア各地で侵略戦争をすすめるなかで、侵略戦争推進拠点となってきた東京全域は、１９４５年３月10日の東京大空襲をはじめ１００回以上の空襲をうけ、人びとが命を失い、傷つき、家を焼かれました。なかでも３月10日未明の大空襲３００余機のＢ29爆撃機により２時間半にわたって１万６千余発の焼夷弾が投下され、10万人をこえる親子のいのちを奪いました。これら悲惨な戦争の真実を伝え、犠牲者を追悼し、平和を発信する都立の「平和祈念館（仮称）」建設は、戦争体験者をはじめ平和を求める広範な都民の願いです。

原爆投下の広島・長崎、地上戦が戦われた沖縄などには、犠牲者を追悼し、内外に平和を発信する平和祈念館が建設されているのに東京には建設されていません。それを阻んできたものは何か？その真実を解明し、日本を「戦争できる国」にしていく暴走政治を阻止するためにも、あらためて建設の重要性を考えるシンポジウムです。

主催「東京都平和祈念館（仮称）」建設をすすめる会
【問合せ先】☎０３－５９２７－１４８５　FAX０３－５６２７－１４８７（東京平和委員会）